

(11) 鬼北ブロック（鬼北町、松野町）

～産地づくり～

「水稻」は、新品種の導入や主食用米の需要に即した生産に努めるとともに、スマート農業を推進し、生産振興を図ります。果樹では、特産の「ゆず」について地域品種の普及を図り、「くり」「もも」については、(株)源吉兆庵への安定供給を実現します。また野菜においては、「きゅうり」の産地復活を後押しし、需要拡大が見込める軽量野菜生産の振興を図るとともに、農地の整備を進め、新たなビジネスや地域特産品の開発についても取り組みます。

～推進品目や産地づくりの方向～

○「水稻」の大規模経営体育成と優良農地集積に向けた環境整備

【取組】

- ① 新品種「ひめの凜」の普及拡大に向け、現地栽培適応性の確認や、栽培講習会を通じた技術指導による、品質向上対策を実施
- ② 大規模経営体の育成に向け、水管理システムやドローン防除、直播・密苗栽培等の省力化技術の導入に向けた実証試験を実施
- ③
 - ・農村地域の持続的発展に向け、地域の将来像と目指すべき農業について、集落のふるさと保全計画の検討支援
 - ・農業用水の確保と農村地域の防災・減災を目的に、ため池の改修や農業用排水路の整備を実施
- ④ 主食用の需要に即した生産、水田の有効活用を図るため、畜産農家と連携し、飼料米等の新規需要米の作付けを推進

【成果】

- ① 「ひめの凜」栽培面積：7.6ha
〔R4：5.2ha、R3：3.5ha〕
- ② 省力化技術導入に向けた実証試験の実施
(導入農家数：ドローン防除4戸、新コーティング種子直播2戸、水管理システム1戸)
- ③
 - ・ふるさと保全計画の策定（鬼北町：1集落）
 - ・ため池改修：2ヶ所（鬼北町）
 - ・用排水路整備：4路線（各町2路線）
- ④
 - ・飼料用米作付面積：29.9ha
〔R4：26.3ha、R3：23.2ha〕
 - ・飼料用稲作付面積：19.2ha
〔R4：19.3ha、R3：14.9ha〕



「自動水管理システム」の実証



新コーティング種子の高精度湛水直播機による省力化の実証



ゆずの排水性改善実証



縮間伐による作業性改善実証

○ゆず「鬼北の香里」の産地化と高付加価値型栽培の実践

【取組】

- ① トゲの少ない有望品種「鬼北の香里（きほくのかおり）」の導入推進による作業性の改善と園地の若返り
- ② 付加価値を高めるため、有機JASに準じた栽培を推進
- ③ 省力化及び早期成園化にむけた栽培技術の実証と普及

【成果】

- ①
 - ・ゆず「鬼北の香里」導入本数：2,859本
〔R4：3,577本、R3：3,931本〕
 - ・管内ゆず集荷量：2,121トン〔R4年比：250%〕
- ② 有機JAS栽培準拠農家：614戸
- ③ 樹形改善による作業省力化及び小型穴掘り機を用いた排水性改善の実証を4か所で実施
 - ・収穫効率が約1.4倍向上
 - ・耕盤破壊により土壌水分量が12%低下

○加工用品種の栽培支援と(株)源吉兆庵への安定供給の確立

【取組】

- ① くりでは、伐採林地を活用し、灌水・鳥獣被害防止設備を備えたくり大規模モデル園を設置し、省力化技術及び早期成園化の実証や新規栽培者確保を推進
- ② 加工桃では、早期（青玉）出荷体制への移行を支援し、収穫ロス削減や安定供給を推進するとともに、低コスト果実袋の実用性実証を実施
- ③ 改植障害対策として、土壌環境調査及び土壌改良剤の実証

【成果】

- ① 収穫ネットによる作業時間の省力化：約40%減
- ② 早期出荷（青玉、200g前後）を開始したが、果実袋（九つ切り）の開裂など、耐候性等の改善点が明確化：出荷量8.4t
- ③ 実証ほによる検証を開始（指導班ほ場及び現地2ほ場）



早期（青玉）出荷講習会の開催

○キウイフルーツ花粉ビジネスの定着支援

【取組】

- ① 産地規模拡大に向けた低コスト省力栽培技術の実証
- ② 核となる農家の栽培技術の向上を図り、早期成園化を推進
- ③ 花粉の採取精製・検査体制を支援し、R4年産の県内での実証
- ④ 町との連携等、新規栽培農家の掘り起こしを推進

【成果】

- ① 早期成園指導による樹冠拡大を達成：花粉生産量1.92kg
- ② 現地ほ場（県下4地域）にて、松野町産花粉を授粉した果実の生育調査により、アメリカ産花粉と同等の生育及び品質を確認
- ③
 - ・ 関係機関と連携し、花粉出荷のための検査体制構築を支援
 - ・ 令和5年産花粉を販売業者へ出荷（8月）
- ④ 実証事業（低コスト省力栽培ハウス）の導入、面積拡大（2戸：104a）



キウイ花粉増産に向けた剪定講習会の実施

○野菜産地の復活に向けた担い手育成と研修体制の再構築

【取組】

- ① きゅうり栽培等の先進技術の習得や農地・ハウスの生産基盤確保等による円滑な就農を目指した研修施設と支援体制の構築
- ② スマート農業技術を導入した栽培環境や作業データの分析と活用、リアルタイム栄養診断による生育状態の可視化など、データ駆動型農業の実践による高い生産性と収益性の実現

【成果】

- ①
 - ・ 各機関の役割分担による包括的な研修計画を策定
 - ・ 新規就農者1人、研修生2人が円滑な経営開始に向け、就農計画を具体化し、基本技術を習得
- ②
 - ・ ハウス環境モニタリング機材等の活用研修を実施し、若手生産者から導入検討の意向を確認
 - ・ 生育及び環境データに基づいた、新たな栽培マニュアル（指標）を作成 ※データ検証中



モニタリング機材活用研修



鮮度保持資材利用による果皮色の変化

○地域の優れた特産品の育成

【取組】

- ①
 - ・ うめでは青梅出荷体制確立のため、肥大調査及び貯蔵試験を実施
 - ・ 産地維持に向けた各生産者の栽培状況把握
- ②
 - ・ 「鬼北熟成雉」において、新規生産者の掘り起こし
 - ・ 高知県のきじ生産者組織との意見交換及び新規施設の視察

【成果】

- ①
 - ・ 青梅から完熟梅収穫時までの肥大量を把握
 - ・ 鮮度保持資材の利用により2～3日程度青色保持期間が延長
 - ・ 生産状況及び園地承継希望調査：12人
- ②
 - ・ 新規生産候補者：1人（地域おこし協力隊でR7年4月就農予定）
 - ・ 飼育管理技術の向上、今後のきじ生産に関する協力体制を構築



高知県のきじ生産者組織との意見交換会

～地域づくり～

「水稻」では、規模拡大に伴う省力化技術の普及を図り、経営多角化や集落営農の組織化により、中山間地における「水稻」を中心とした農業経営の安定と地域農業の維持発展を目指します。また、農業支援センター等と連携し、認定農業者や女性等による6次産業化やグリーン・ツーリズムなど、多様な担い手が活躍できる地域づくりを推進します。また、荒廃農地拡大の最大要因となっている鳥獣被害対策に取り組むとともに、獣肉資源の有効活用に努めます。豊かな自然や豊富な食材等の地域資源を活用して都市との交流を促進します。

～推進対象や地域づくりの方向～

○大規模経営体の育成と競争力のある農業経営支援

【取組】

- ① 各町及び農業公社と連携し、水田地帯での農地集積による荒廃農地対策を推進
- ② 優良経営体の法人化を進めるため、各種補助事業や新技術導入等を図り、人・農地プランに位置づけられた担い手を競争力の高い経営体に育成
- ③ 多面的機能を有する農地等の地域資源を適切に保全管理するため、地域ぐるみで取り組む共同活動を支援
- ④ 鳥獣被害の軽減を図るため、侵入防止柵設置や捕獲等による獣肉の有効活用を進めるとともに、加工施設の新設整備を推進

【成果】

- ① 管内荒廃農地面積：23.3ha（鬼北町：11.2ha、松野町：12.1ha）
〔R2年（基準年）：34.8ha〕
- ② 〔・規模拡大に向けた経営体の省力技術の導入：1経営体
・各種補助事業活用による経営の多角化：1経営体〕
- ③ 〔・鬼北町 多面的機能支払：20組織（395ha）
中山間地域等直接支払：22組織（143ha）
・松野町 多面的機能支払：14組織（186ha）
中山間地域等直接支払：20組織（183ha）〕
- ④ 〔・侵入防止柵の設置：5,900m
・鬼北町：有害鳥獣処理（減容化）施設に隣接するジビエペットフード加工処理施設において受入を開始（10月）
・松野町：「まつのジビエ」を生産・販売する「NPO法人森の息吹」がペットフードブランド『FOR DOGS』の商品ラインナップを拡充〕



担い手への農地集積会議



省力化技術の導入
（農薬散布用ドローン）

○多様な担い手の育成（就農支援・集落営農組織体制整備）

【取組】

- ① 認定農業者や農地所有適格法人の育成と、高齢化と兼業化に対応した就農支援や営農体制整備を推進
- ② 地域おこし協力隊や・Uターン就農の促進を図るため、組織間の連携や就農しやすい環境整備を推進
- ③ スマート農業や高付加価値型農業経営の推進
- ④ 学校と連携した、食農教育活動による次世代を担う人材の育成
- ⑤ 首都圏での就農相談活動

【成果】

- ① 重点対象選定による認定・新規就農者支援：2人、集落営農：1集落
- ② 〔・新規就農者：3人（鬼北町2人、松野町1人※協力隊）、
研修生受入：2人
・担い手確保育成検討会による情報の共有化（年3回）〕
- ③ スマート農業実証、病害虫防除や農作業安全講習による技術向上
- ④ 食農教育・農業体験学習活動支援：小学校：7回（鬼北町5、松野町2）、中学校：2回（各町1）、農林水産人出前授業（北宇和高校）
- ⑤ 農業・移住相談（東京・大阪）に対応：鬼北町2回、松野町9回



ふるさと保全計画検討会
（集落ビジョンマップ作成）



中学生を対象にした
食農教育

○都市との交流促進（地域資源活用）

【取組】

- ・直売所等交流拠点を核とした「鬼のまち」「森の国」ブランドを育てると共に、拠点の整備・拡充や農林漁家民宿の開業支援
- ・農業の振興と都市住民との交流による地域活性化を推進
- ・他県の修学旅行生受け入れに向けた研修を行い、体制整備を支援

【成果】

- ・グリーンツーリズムプロモーション事業活用：1件、修学旅行受入：1校